

Friday ▶▶▶ ちば

に鴨川の「白酒」

の農産物など奉納



奉納されたJA安房の農作物

大田市場で知事ら
県産秋冬野菜PR



市場関係者に野菜の詰め合わせを手渡ししてPRする熊谷知事(左)(東京都の大田市場で)

グループによる「お米の宝船」も奉納された。新嘗祭

には、鴨川市明治神宮崇敬講の役員らも参列した。

秋季例大祭の運営に携わる若い責任役員ら(10月9日、千葉市中央区) 河津真行撮影



同神社は1000年以上の歴史を持ち、10世紀の文書「延喜式神名帳」

神事を取り仕切る。現在在は神職として、同神社の

月、先代宮司の死去に伴って宮司代務者に就いた。現

屋さんは「伝統的な神社の運営に携わることで、地

域のために貢献できることがやりがい」と笑顔で話す。

森屋さんは2023年5月、先代宮司の死去に伴って宮司代務者に就いた。現

屋さんは「伝統的な神社の運営に携わることで、地

域のために貢献できることがやりがい」と笑顔で話す。

森屋さんは2023年5月、先代宮司の死去に伴って宮司代務者に就いた。現

屋さんは「伝統的な神社の運営に携わることで、地

域のために貢献できることがやりがい」と笑顔で話す。

森屋さんは2023年5月、先代宮司の死去に伴って宮司代務者に就いた。現

屋さんは「伝統的な神社の運営に携わることで、地

域のために貢献できることがやりがい」と笑顔で話す。

森屋さんは2023年5月、先代宮司の死去に伴って宮司代務者に就いた。現

屋さんは「伝統的な神社の運営に携わることで、地

神社の運営 若い力で

蘇我比咩神社 30〜40代が責任役員

高齢化で神社運営や神事の担い手が減少している中、蘇我比咩神社(千葉市中央区)では、運営に携わる責任役員に30〜40歳代の若い世代が就いている。約3年前に同神社の宮司代務者に就いた西田哲紀さん(48)の発案で「若い力で伝統ある神社を次代につなぎたい」と意気込んでいる。

(河津真行)

「続きまして、参列者の玉串拝礼に入ります」

同神社で行われた秋季例

大祭。式典で、司会を務め

る森屋諒さん(37)の声が社

殿に響いた。式典には地域

住民や会社関係者ら約25人

が参加。同神社で最も重要

な神事の一つだ。

森屋さんは昨年2月、以

前から親交のあった西田さ

んに誘われ、責任役員に

就いた。現在は同神社の運

営のほか、ブランディン

グなどに関わっている。森

屋さんは「伝統的な神社の

運営に携わることで、地

域のために貢献できること

がやりがい」と笑顔で話す。

西田さんは2023年5

月、先代宮司の死去に伴っ

て宮司代務者に就いた。現

在は神職として、同神社の

神事を取り仕切る。

同神社は1000年以上

上の歴史を持ち、10世紀

の文書「延喜式神名帳」

にその名が残る県内で最も古い神社の一つだ。しかし近年は、責任役員の高齢化が進み、資金繰りも困難になっていた。西田さんは「将来も神社を残すため、先を見据えた息の長い運営を行うには、若い力が不可欠だと思った」と振り返る。

西田さんが友人や知人に声をかけ、新たに30〜40歳代の5人が神社の維持・管理や運営に携わる責任役員に就いた。神社の知名度や魅力を高めるためにブランディングやプロモーションに注力するほか、行事の事前準備や会場設営も行う。

神社を拠点に会社経営者が集まる異業種交流会「コトダマ会」も昨年、発足した。2〜3か月に1度、神社に集まって情報交換や交流を行う。西田さんは「地元でビジネスを行っている人が集まることで、神社に関わる人の数を増やしたい」と力を込める。

氏子総代の斉藤悦延さん(70)は「行動力ややる気だけでなく、発展性がある。若い世代が参加することによって、神社の雰囲気も明るくなった」と歓迎する。

今後の神社運営について西田さんは「長い歴史のある神社の伝統を守るためには、時代に合わせた運営が必要。今後も幅広い世代の人に神社に携わってもらいたい」と呼びかけている。